

## 私の時代



いま思うこと

斉藤 秀信 (S40年卒・BSSO)

私は現在、3年前から地元小学校にあるクラシック・オーケストラの編曲や演奏指導のお手伝いをしています。小学生といっても80人を越える大編成で、またレベルも高く、昨年は千葉県大会で最優秀賞を受賞し、東日本の発表会に3年連続で出場しています。しかも、取り上げる素材はクラシックだけでなく、ポップス、ロック、マーチ、ラテン、映画音楽、ジャズなど、ジャンルを越えてなんでも演奏するのがユニークな特徴です。昨年春、このオーケストラの子供達をBSSOの定期演奏会に初めて連れて行きました。全く知らない曲ばかりなのに子供達は感動し、「僕は明大のビッグバンドに入るのだ」と言った子供までいました。子供達の感性の鋭さにも驚きましたが、それよりもこれだけの感動を子供達に与える素晴らしい演奏をしてくれた後輩現役の皆さんに感謝した次第です。

大学時代を振り返ると、苦勞した思い

出も少なくありませんが、先輩方から叱られながらも教わり、作編曲のノウハウを学び、貪欲に時間を惜しんで数々の名曲を聴いた体験は、五十路を越えた今でもまるで昨日の出来事のように思い出すことが出来ます。

今後この体験を生かして、僅かの時間を割いての手伝いで大したことはしておりませんが、時間の許すかぎり、この子供達のオーケストラの手伝いを続けて行こうと思っています。

## 私の時代

長谷部 満 (S45年卒・BH)

私の大学時代の背景には、安保闘争の流れによる学生運動の華やかなりし頃であり、学生会館が占拠されたり、記念館に機動隊の放った催涙弾で目も明けられない状態に練習したり、学校側によりロックアウトされたりしたような環境でした。そんな中で、軽音クラブ員(7バンド、五〇人)は、自分達の追求する音楽に向かって、日々努力練習していました。私の所属していたワイキキドリマーズは、当時、スタンダードなハワイアンより、モダンハワイアンを追求する風潮が強く、ジャズコーラスをメインに「フオー・フレッシユメン」とか、ボサノバの「セルジオ・メンデス」など多種のサウンドを研究し、従来のステイールギターを中心とした、優雅なハワイアンより脱皮する事が、時代の先端を行く事だと

信じておりました。しかし、片や、ライブをやっている「タクト」や「アシバ」でコーヒー一杯で粘って、オリジナルのハワイアンのプロの演奏を勉強したものです。先輩のバンド(敬称略、広田、布施、古岡、佐々木、山田)は「エルクンバンチエロ」を、サンバで、すばらしいハーモニーのコーラスで聞かせたり、(敬称略、田中、稲田、江頭、成富、森田、三井、橋本)は、パティエモンズが演奏している、ジャズの「ウィッチクラフト」をテーマソングとして、セルジオ・メンデスの「コンスタント・レイン」をボサノバで演奏したり、私の代には渡辺、山田、高木、阿部、尾崎、三輪のメンバーで、ハワイアンミュージックをモダンにアレンジした「アリス」や「インピテイションズ」というハワイのバンドのコピーをやっておりました。夏の合宿で沼津、戸田、富士急などへ行ったり、冬のスキー場(章津、赤倉)のホテルへハコで入ったり、西日本の演奏旅行を楽しんだり、夜はプロと一緒に仕事をしたり、今とちがって、沢山、演奏するチャンスがありました。

## わが心のBS

萩野 真理子(平成2年卒・BSSO)

PM10時——やっつと残業が片づいた。もうヤダ。疲れた、肩が凝った。あーあ……とかなんとか言いつつ、酔っぱらいだらけの街を家に向かつて歩く。ふとどこにでもあるようなフツの喫茶店から、有線放送のジャズが聞こえてきた。

……ジャズか。そういえばもう何ヶ月か聴いてないなあ。カラオケはよく行くんだけど、まともに音楽を聴いてない。しょうがない、たまには聴いてみようって感じて早速帰って、マイケル・ポルトナー——はやめて、ケニー・ドーハムあたりをかけてみた。何だかわからないけど妙に力が抜けていく。私もこんな様な音楽をやっていたんだなあ。懐かしいというより、まさにあの日の自分に戻ったようだ。数年前のことだなんてとても思えない。

私も今では某ミューサー業界の、いち女子社員になってしまっている。キャッピキャッピの女の子達と、よく遊びます。スキーにテニス、カラオケ、ジュリアナだつて行っちゃう。仕事中はもうバリバリのキャリアアウーマンだし……なんちゃつて。

でも、それでも、何ヶ月ぶりにもジャズを聴くと、本当の自分らしさが取り戻せる。BSのリサイクルやコンテスタを聴きに行くと、無意識に体でリズムをとってしまう。皆に会って、飲みに行く。大人げない演奏理論をムキになって言い合う。久しぶりに楽器を吹く。超ヘタクソだけど、すごく嬉しい。

……なんだろう。何なんだろうBSって。普段の生活でいつも心の中にいるっていうわけではない。頭のかたすみにも思い出さない時もある。でも、そんな時でもあの爽快なビッグバンドジャズを聴くと、まるで長年田舎に帰っていない親不孝娘が久しぶりに里帰りしたというような、甘酸っぱい郷愁が胸がいっぱいになる。——それでいい、と思う。